

宇宙を感じて

守山市立守山中学校 三年 九里 孝行

私は、星を見るのが好きだ。星を見るとい
うことは「偽りの光」を見るということだ。
私は今、何十年、何百年前の過去の光を見て
いるのだ。今、私の目に見えているこの星の
数々は、過去のものであり、今、この瞬間の
星の姿とは違う物なのもかもしれない。
星空をずっと観ていると、その不思議な感
覚を、いつも覚える。

例えば、オリオン座のベテルギウスは、す
でに超新星爆発が起こっているのかもしれない。
い。そして、今、地球に向かって、その光が
一秒間に三十万kmという「光速」で近づいて
いるかもしれないのだ。

超新星爆発とは、巨大な星が最期に迎える
大きな爆発である。しかし、一つの星の死は
別の星の誕生につながっている。星の終わり
でもあり、始まりでもあるのだ。

この超新星爆発によって、様々な元素が作

られ宇宙にまき散らされる。これによって、その元素が私たちの身体を作る材料にもなっているのは、実に感慨深い。

私も、この世界中の人々も、すべての生き物も「星の子供」なのだと言える。こんなちっぽけな私でも、大きすぎる宇宙の一部なのだ。いままで手の届かなかつた宇宙は、実は意外と私の近くに広がっていたのだと想えてきた。

星を観ながら、そんな何の意味もないことを考えている自分がいる……。ふしぎだ。

人類が初めての人工衛星、スプートニク一号を打ち上げてから約六十年がたった。

この六十年で科学技術は飛躍的に発達した。系外惑星の搜索。木星の衛星エウロパの探査。今では、地球外生命体の発見に向けて、様々な計画が進められている。

想像して欲しい。もしかしたら、近い未来、人類が味わってきた長い孤独が終わる日が来るかもしれないということ。世界が大きくなる

変わる歴史の分岐点がもうすぐそこまで来ているのだ。

宇宙空間に、ぽつんと浮かぶ「宇宙船地球号」は四十八億年もの長い間、一隻だけで宇宙という大海原を航海してきた。しかし、孤独な航海が今、終わろうとしているのか…。

地球外生命体を研究することによって、私たちがどのような存在なのか、どこから来た、どこへ向かうのかが分かる日が来るかもしれないのだ。それは、人類の長年の夢でもある。これから、私たちに何が待ち構えているのか。楽しみだ。

私は、すべての人々、すべての生き物、夜空に浮かぶ星々、このすべてのものをつながっていると感じながら、また今夜も夜空を見上げる。